1. 巻頭言

センターレポート第15号によせて

総合情報処理センター長
小山　純
E-mail: oyama@ec.nagasaki-u.ac.jp

このたび、3月末で総合情報処理センター長を退任させて頂くことになりました。力不足の私が、曲がりなりにもセンター長の大役を務める事ができたのも、横山学長、渡邊局長をはじめ関係する多くの方々のご指導、ご助力の賜物であり、心より御礼申し上げます。

平成2年4月センター長に就任して以来6年、この期間に情報処理環境は大きく変化しました。

その1つはネットワーク環境の変化です。当時ネットワークといえば、主に、大型コンピュータを離れた場所から利用するために端末とコンピュータを結ぶネットワークを指していました。現在のネットワークは、コンピュータとコンピュータとを結ぶネットワークを指しています。インターネットに代表されるようにコンピュータ・ネットワークは、世界中に網の目を広げるように普及してきています。長崎大学においても平成6年7月長崎大学キャンパス情報ネットワーク(NUNet)が完成し、稼働しています。さらには、マルチメデイア時代にそなえてネットワークの高性能化をはかるために、平成7年度第2次補正予算によるATMネットワークの整備も進行しています。

コンピュータ自体の変化も目覚ましいものがあります。平成2年当時は汎用機と呼ばれる大型コンピュータを全体で共有し、すべての仕事を一台のマシンで処理する方式が主流でした。現在ではネットワークで相互に接続される小型・高性能でコストパーフォマンスに優れた複数のコンピュータを、演算サーバー、データベースサーバー等、目的に応じて使い分けることが主流となっています。それに伴い、コンピュータの基本的なソフトウエアであるOSも変化しています。計算機メーカそれぞれが独自のOSを使っていた時代から、広く流通しているアプリケーションソフトウエアが使えるように、共通のOS(UNIX)を使うようになってきています。

情報処理教育に対する考え方も大きく変わりました。コンピュータは、一部の人が使えれば良い時代から、英語と同じように、だれでも使いこなさなければならない時代となりました。長崎大学でも、全学教育の目玉として、一般情報処理教育が取り入れられています。

総合情報処理センターでは、平成9年1月、計算機システムの機種更新を予定しており、仕様策定委員会で仕様策定作業が進められていますが、これらの情報処理環境の変化に伴い

(1) UNIXをベースとする高速サーバーの導入

(2) 情報処理教育環境の整備

が仕様策定の柱となっています。

長崎大学における情報処理環境のハード面での整備は、以上述べたように、ここ数年で大きく前進する見通しとなりました。これも横山学長を始め多くの関係者の皆様のご尽力の賜物と深く感謝申し上げます。

しかしながらこれらのハードを使いこなす技術、ソフト面の充実はこれから課題です。次期総合情報処理センターとなられる黒田英夫教授のご専門は、情報システム学です。コンピュータやネットワークの利用技術に関し、有益なアドバイスを頂けるものと期待しております。